文化　3版　2012年(平成24年)3月22日　木曜日　朝日新聞（夕刊）

能「ポトマック桜」上演

6日 東京 梅若能楽学院

上田邦義さん

「憲政の神様」と呼ばれた尾崎行雄が、東京市長時代にワシントン市へ桜の苗木を送って1世紀。東京・東中野の梅若能楽学院会館で4月6日、新作能「ポトマック桜」が上演される。

副題は「尾崎行雄とエイブラハム・リンカンの夢」。訪米した尾崎とリンカーンの霊が桜並木のポトマック河畔で出会い、心通わせる創作の鎮魂能だ。英文学者で静岡大名誉教授の上田邦義さんが書いた原作を、能楽シテ方の津村禮次郎が作能し、大鼓方の大倉正之助が作調した。

娘と共にポトマック河畔を訪れた老境の尾崎。見知らぬ男にリンカーンも桜を愛したと声を掛けられ、夜半の再会を約束する。現れた男はリンカーンの霊と名乗り、南北戦争を回避できなかった苦悩を語る。

「尾崎もリンカーンも真の民主主義を考え続けた政治家。南北戦争150年の節目が重なる今の時期に、2人が出会う物語を書きたかった」と上田さん。地謡が「戦争による決着。これ真の政治なるや」と問いかけ、リンカーンの霊は尾崎と共に「殺すな。戦うな」と謡い、舞う。「語られるのは戦争による死者だが、2人が到達するのは神の御霊を分け持つ人間という存在の尊さ。昨年の震災を経て、能本来の鎮魂への祈りが深まるよう、推敲を重ねました」

尾崎が「人生の本舞台は常に将来にあり」と謡う結末には、救いの光がある。「次はワシントンのポトマック河畔に特設舞台を設け、米国の方々にも見て頂くのが目標です」

リンカーンの霊は禮次郎、尾崎は伊藤嘉章。指定席1万円、自由席3千円。留学生500円。初心者も聞き取れるように会場では謡本を配る。電話0467・82・0435（コウサカ）。

（西本ゆか）

朝日新聞 2012 年 3 月 22 日夕刊